

## 中韓と比較した日本におけるキャッシュレス決済の現状

加藤迅人（[22011093hk@tama.ac.jp](mailto:22011093hk@tama.ac.jp)）

### 1. 研究の背景と目的

2018年ごろからキャッシュレス決済が急速に普及してきている。経済産業省のキャッシュレス・消費者還元事業や、地方自治体と連携したポイント還元、マイナポイント等の施策、新型コロナウイルスの影響によって、日本におけるキャッシュレス決済が普及してきた。経済産業省では、2025年までにキャッシュレス決済を4割程度とすることを目指し、将来的には世界最高水準の8割程度とすることを目指している。

2020年時点での世界主要国におけるキャッシュレスの決済比率を見てみると、韓国は93.6%、中国は83.0%であるが、日本のキャッシュレス決済比率は29.8%である。2018年時点での日本のキャッシュレス決済比率は24.2%であったが、2021年の日本のキャッシュレス決済比率は2018年から8.3%上昇しており32.5%である。しかし、それでも他国と比較すると非常に低い水準である。

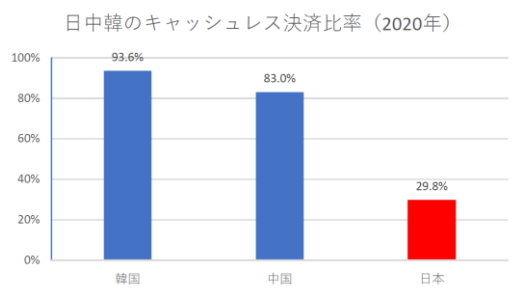


図1. 2020年時点での日中韓のキャッシュレス決済比率（一般社団法人キャッシュレス推進協議会、「キャッシュレス・ロードマップ2022」を元に作成）

研究の目的として、韓国や中国のような国は、なぜ日本とはかけ離れたキャッシュレス決済比率になっているのか興味を湧いた。そのため、日本におけるキャッシュレス決済の現状を把握した上で、日本と韓国や中国など他国との比較をして、日本のキャッシュレス決済の現状（普及しない理由など）を明らかにする。

### 2. 先行研究

卫娣. 「モバイル決済の国際比較研究

— スウェーデンと中国について —」.

先行研究では、モバイル決済についてスウェーデンと中国での比較を行うものである。この研究資料は私の研究したい内容と非常に似ている。そのため、これを参考にしながら研究を行っていききたい。

### 3. 研究方法

経済産業省や東京都などの資料等から2018年ごろ～2022年までのキャッシュレス決済の現状についてのデータを元に、各国のキャッシュレス決済について比較をして研究を行っていく。

### 4. 今後の課題とスケジュール

比較などを行っていくため、中韓のキャッシュレス決済に関する資料を集めていくことが課題となってくる。日本におけるキャッシュレス決済の現状については、経済産業省や東京都などの資料や、データを探し出していきたい。

2023/02 資料収集

2023/03 資料調査

3月中にアンケートを行うか決める  
行う場合は4月までにアンケート作成

2023/04 比較研究を開始

(中略)

2023/08 完成(目標)

### 参考文献

一般社団法人キャッシュレス推進協議会. 「キャッシュレス・ロードマップ2022」. <https://paymentsjapan.or.jp/wp-content/uploads/2022/08/roadmap2022.pdf>

卫娣. 「モバイル決済の国際比較研究 — スウェーデンと中国について —」. [https://www.jstage.jst.go.jp/article/jamsjsaam/26/0/26\\_91/pdf-char/ja](https://www.jstage.jst.go.jp/article/jamsjsaam/26/0/26_91/pdf-char/ja)